福島県農業総合センターだより

ラウンド農ふくしま

第41号
2019.11

品種特集号 ～新たな福島県のブランド米が生まれます～

県では、気候風土に適し、県産農産物の競争力や産地力の強化を図ることができるオリジナルの品種の開発・育成を進めています。本号では、今後、本格デビューする新しいお米の品種「福島40号」や酒米品種「福島酒50号」のほか、開発中の品種などを御紹介します。

新しい県オリジナル水稲品種「福島40号」を御紹介します！

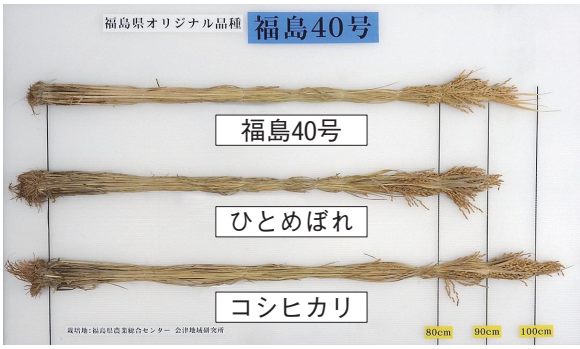

図１「福島40号」

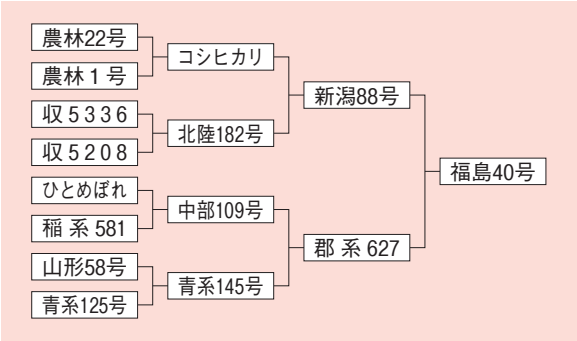

図２「福島40号」の系譜

令和３年（2021年）から一般栽培が開始される「福島40号」は、平成18年に「新潟88号」を母、県育成系統の「郡系627」を父として交配し、13年の歳月をかけて約2,600個体の中から選抜・育成した品種です。

「コシヒカリ」並の熟期で、玄米品質が良く、倒れにくく栽培しやすい品種となっています。

また、味と香りがよく、柔らかめに炊きあがる特徴があります。

県では、本品種をトップブランド米と位置づけ、生産振興を図る考えです。

〈栽培・玄米の特徴〉

- 粒が大きく、収量性が高い品種です。
- 出穂期及び成熟期は、「コシヒカリ」より２日程度遅くなります。
- 稈長が短く、耐倒伏性があります。
- いもち病真性抵抗性遺伝子型は“*Pia*、*Pii*”と推定され、ほ場抵抗性は穂いもちが“中”です。
- 玄米外観品質は白未熟粒の発生が少なく、良好です。

〈食味・食感の特徴〉

- 食味官能試験の総合評価は「コシヒカリ」並の良食味です。
- 香りがよく、柔らかめの食感で、粒が大きいことが特徴です。

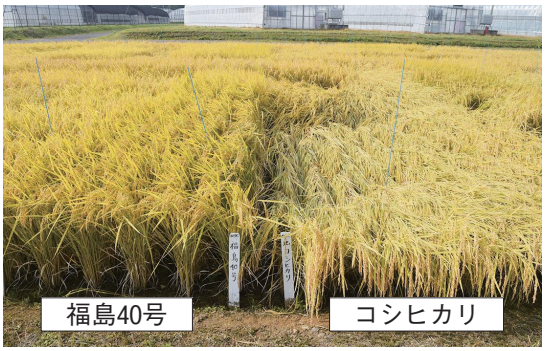

図３　成熟期の様子

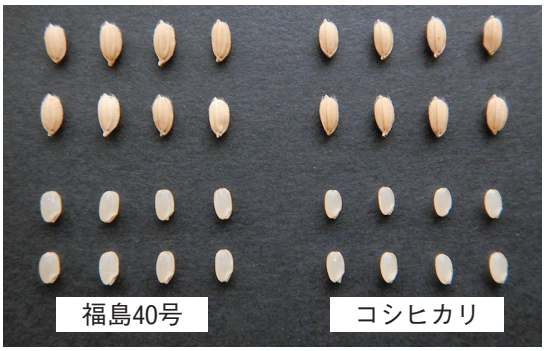

図４　玄米の比較

県オリジナル酒米「福島酒50号」を御紹介します

酒造好適米「福島酒50号」は、平成16年に静岡県の品種「誉富士」を母、山形県の品種「出羽の里」を父として交配し、15年かけて育成しました。

成熟期は「コシヒカリ」よりやや早く、県内で長年酒米として作付けされてきた「五百万石」より倒れにくく栽培しやすい品種です。

醸造すると、雑味が少なく、香り高いお酒になりやすい特徴があります。また、大吟醸酒の原料としても使用できます。

本年度は先行栽培を行っており、来春には新しい名前での新酒お披露目イベントを予定しています。

図１「福島酒50号」

図２　「福島酒50号」の玄米

～その他の福島県のオリジナル水稲品種の御紹介～

●天のつぶ（平成22年奨励品種選定）

- 平坦地向け
- 倒伏に強い
- 病気に強い
- 食味がよい

●里山のつぶ（平成29年奨励品種選定）

- 中山間地向け
- 倒伏に強い
- 病気や冷害に強い
- 歯ごたえと粘りがある

●夢の香（酒造好適米）（平成12年奨励品種選定）

- 山沿いなど寒い所向け
- 倒伏に強い
- 品質が良い
- できあがりの日本酒は、香りと味のバランスが良い

問合せは　作物園芸部品種開発科　☎024-958-1721まで

品種育成の取組　～野菜・花き～

イチゴ

イチゴの育種では、①大果性、食味、果実硬度、外観等の果実品質が優れる品種、②栽培管理が容易で病害抵抗性を有する品種、③厳寒期においても草勢が強く花房が連続し収量性が高い品種を目標として開発に取り組んでいます。これまでに、県オリジナル品種として「ふくはる香」と「ふくあや香」が平成18年に品種登録され、県内各地で栽培されています。現在、良食味である「福島14号」を品種候補として、味覚センサーによる評価や現地試験を行っています。

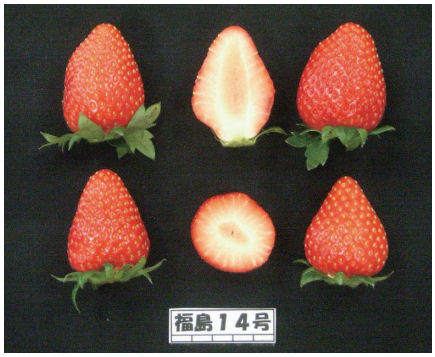

図１　「福島14号」

図２　生産力検定ほの全雄系統
（2019年５月上旬）

アスパラガス

アスパラガスの育種では、優れた全雄系品種の開発を目指しています。

一般のアスパラガス品種には、雌株と雄株がありますが、全雄系品種は、全て雄株となる品種で、種子ができないことから種子の雑草化の心配がなく、作業が省力化できます。また、F_1品種なので多収となります。農業総合センターでは、平成16年に全雄系品種「ハルキタル」を育成しましたが、さらに、若茎の形質と収量に優れる品種を目標に取り組んでいます。

リンドウ

リンドウは、①『強健で形質が揃う栽培しやすい品種』、②『頂花咲き性が優れ、需要期の出荷が狙える青紫系品種』、③『花色や花序等が特徴的で新規性の高い品種』の育成を目標に、平成２年から品種開発をスタートしました。ピンク色の「ふくしまかれん」、青紫色の「ふくしまさやか」など、これまでに計６品種を育成しています。

現在、これらに続く新たな品種候補として、９月咲きの青紫系リンドウ「福島栄22号」の開発を進めています。

図３　「福島栄22号」

カラー

カラーは南アフリカ原産の球根性の花です。県内では主に猪苗代町や塙町、南会津町で生産され、その品質の高さにより夏秋期の一大産地になっています。しかし、栽培中に球根が病気などにより消失しやすいことから、球根の残る品種を作るため平成18年度から品種開発をスタートしました。

現在、クリーム地に桃色の入る「福島１号」、クリーム色の「福島２号」、鮮やかな黄色の「福島３号」を品種の候補として選定し、試験を進めています。

図４　「福島２号」

問合せは　作物園芸部品種開発科　☎024-958-1721まで

品種育成の取組　～果樹～

果樹研究所では、リンゴ、モモ、ナシ、ブドウの品種開発に取り組んでいます。果樹の品種開発は、種を播いて育成した個体から有望な個体を選抜し、現地（果樹農家の園地）で試作し評価を受けて進めます。そのため、品種登録までの期間は早くても約20年を要します（図１）。

最近育成した品種としては、モモでは７月上旬に収穫の「はつひめ」（2009年品種登録）や７月中下旬収穫の「ふくあかり」（平成28年品種登録）、リンゴでは11月下旬収穫の「べにこはく」（平成30年品種登録）などがあります。

本年度に現地で試作している系統は、リンゴ１系統、モモ２系統、ナシ４系統です。

８月21日に開催した検討会では、「ナシ福島７号」が食味良好で病気にも強いなどの理由から有望との評価を受けており、引き続き特徴のある品種の育成により、産地力の強化を図る考えです。

交雑播種 → ほ場に定植 → 所内で調査・選抜 → 現地で試作・調査 → 品種登録

２年　初結実まで約５年　約５年　約７年

図１　果樹の品種育成の流れ

オススメ！蜜た～っぷりな「べにこはく」

「べにこはく」は、名前の由来にもなっていますが、温暖化による着色不良等の影響を受けず安定して皮の色が紅色（暗紅）に色づき、こはく色の蜜がたっぷりと入ることが大きな特徴です（図２）。また、収穫から２～３か月程度貯蔵することができるため、「ふじ」の後に出荷することで、リンゴの出荷期間を拡大することができます。

図２　「べにこはく」の果実

問合せは　果樹研究所　☎024-542-4951まで

品種育成の取組　～畜産～

福島県を代表する【会津地鶏】と【ふくしま赤しゃも】の２つの地鶏は、畜産研究所（旧養鶏試験場）で開発し、維持・改良を行っています。

図１　会津地鶏

⑴　会津地鶏

昭和62年から福島県固有の品種である純系会津地鶏の改良を進めて開発した肉質の優れた地鶏です。強健で飼いやすく、その肉の味は“絶品”と好評で、素材の良さを生かした各種料理にお勧めです。

図２　ふくしま赤しゃも

⑵　ふくしま赤しゃも

新たな高品質肉鶏として平成８年度に開発しました。

シャモを利用した地鶏の中でも、増体性に優れ、シャモ肉特有のうま味があり、低脂肪・低カロリーでヘルシーな鶏肉です。現在は、専用の飼料でのびのびと育てられ、「川俣シャモ」として、生産されています。

問合せは　畜産研究所　☎024-593-1228まで

ラウンド農ふくしま 第41号
https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200a/
E-mail:nougyou.jouhou@pref.fukushima.lg.jp

編集・発行：福島県農業総合センター
〒963－0531
福島県郡山市日和田町高倉字下中道116番地
TEL 024-958-1700　FAX 024-958-1726

VEGETABLE OIL INK
「植物インキ」を使用して印刷しました

R70
古紙配合率70%再生紙を使用しています